



マイクロマウス2002 第23回全日本マイクロマウス大会 —自律型ロボットによる競技大会—



「ロボマガ」記者・城井田勝仁 きい だかつひと

ロボトレース競技



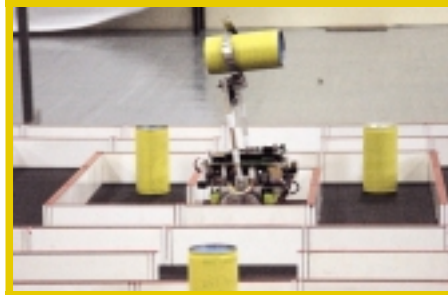
白い線で描かれたコースをなぞりながら周回し、その走行タイムを競う。3分の持ち時間内に許されている3回の走行の中で、もっとも速いタイムが記録として採用される。

マイクロマウス競技エキスパートクラス



迷路のゴールまでたどり着く時間を競う。迷路は競技開始直前にはじめて公開されるので、ロボットは迷路探索からはじめて、最短コースを見つけて走り抜けることになる。

マイクロクリッパー競技



迷路の中に配置された缶をひっくり返し、その数と達成タイムを競う。効率的な迷路走行と、缶をひっくり返すための機構の両方が必要な、難易度の高い競技だ。

◆ロボトレース競技

コーナーマーカーにたよらない新潟コンピュータ専門学校の健闘が目立つも、ライバルの韓国勢にあと一歩及ばず！

優勝	Sang-IL Choi	Korea, Woo Song Univ.
2位	Kim Hyun Kyu	Korea, Woo Song Univ.
3位	山井真哉	新潟コンピュータ専門学校



黒いボードに描かれた白いライン通りに走り、その周回タイムを競うロボトレース競技は、今年も韓国勢と新潟コンピュータ専門学校勢、狭山工業高校電子機械科勢の三つどもえの上位争いとなった。中でも韓国勢の強さは際だっており、2000年の大会からの3連覇を果たした。

期待された新潟コンピュータ専門学校勢は、残念ながら優勝を逃したが、その新たな試み

は注目を集めた。コーナの直前に記されるコーナーマーカーを頼らない走行だ。

コーナーマーカーは、コースの曲率が変わるところに付けられる。大半のロボトレースはそれを検知することで、直後のコーナーに対処する。しかし、新潟コンピュータ専門学校は、それを見落としやすいという理由で、思い切ってコーナーマーカーにまったく頼らない走行を実行したのである。コーナリング時に生じる

左右のタイヤの回転差（バリス比）を初回走行時に記憶し、その結果に基づいて2回目以降の走行を行ったのだ。この試みは一定の成果を上げ、3位と4位には新潟コンピュータ専門学校のロボトレースが入賞を果たした。

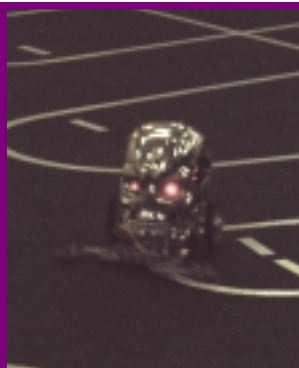
その成否にかかわらず、こうしたチャレンジは見ていると楽しい。今後も新たな試みで、魅せるロボトレース競技を期待したい。



ロボトレース「Nar5」で見事に優勝を果たした Sang-IL Choi さん (Korea, Woo Song Univ.)。ヘアピンカーブの多いコースにもかかわらず、18秒45という素晴らしい走行タイムをたたき出した。



ロボトレース「IRIS」は19秒という好タイムを残したが、わずかに及ばず、Kim Hyun Kyu さん (Korea, Woo Song Univ.) は2位に甘んじた。



ターミネーターの顔とBGMで会場をわかせた、南信次さん (狭山工業高校電子機械科) のロボトレース「テクニカルプロビー」。パフォーマンスに注力しすぎたためか、走行タイムは平凡に終わったが、ナムコ賞をゲットした。